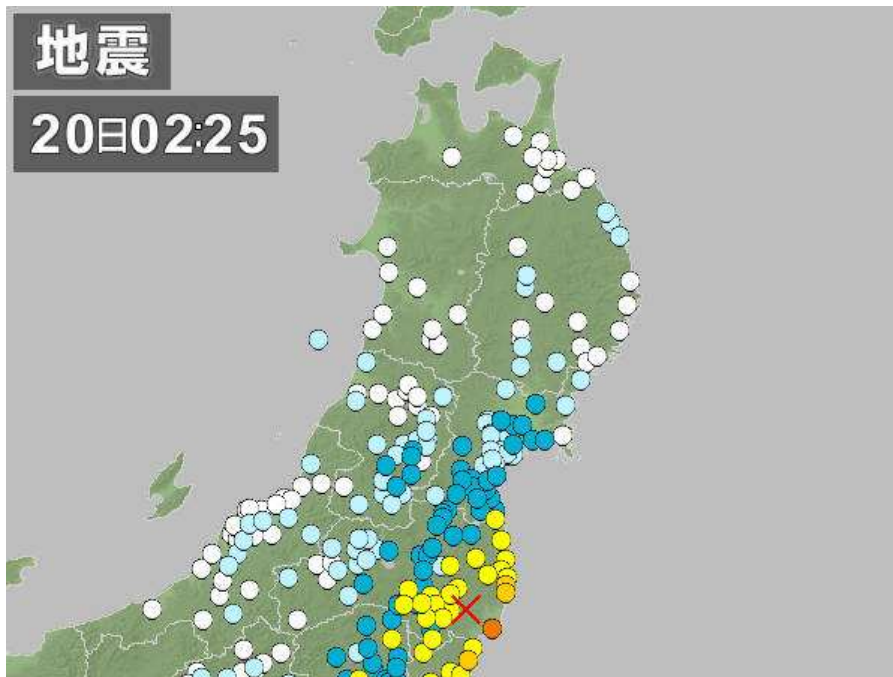


9月20日午前2時25分の地震

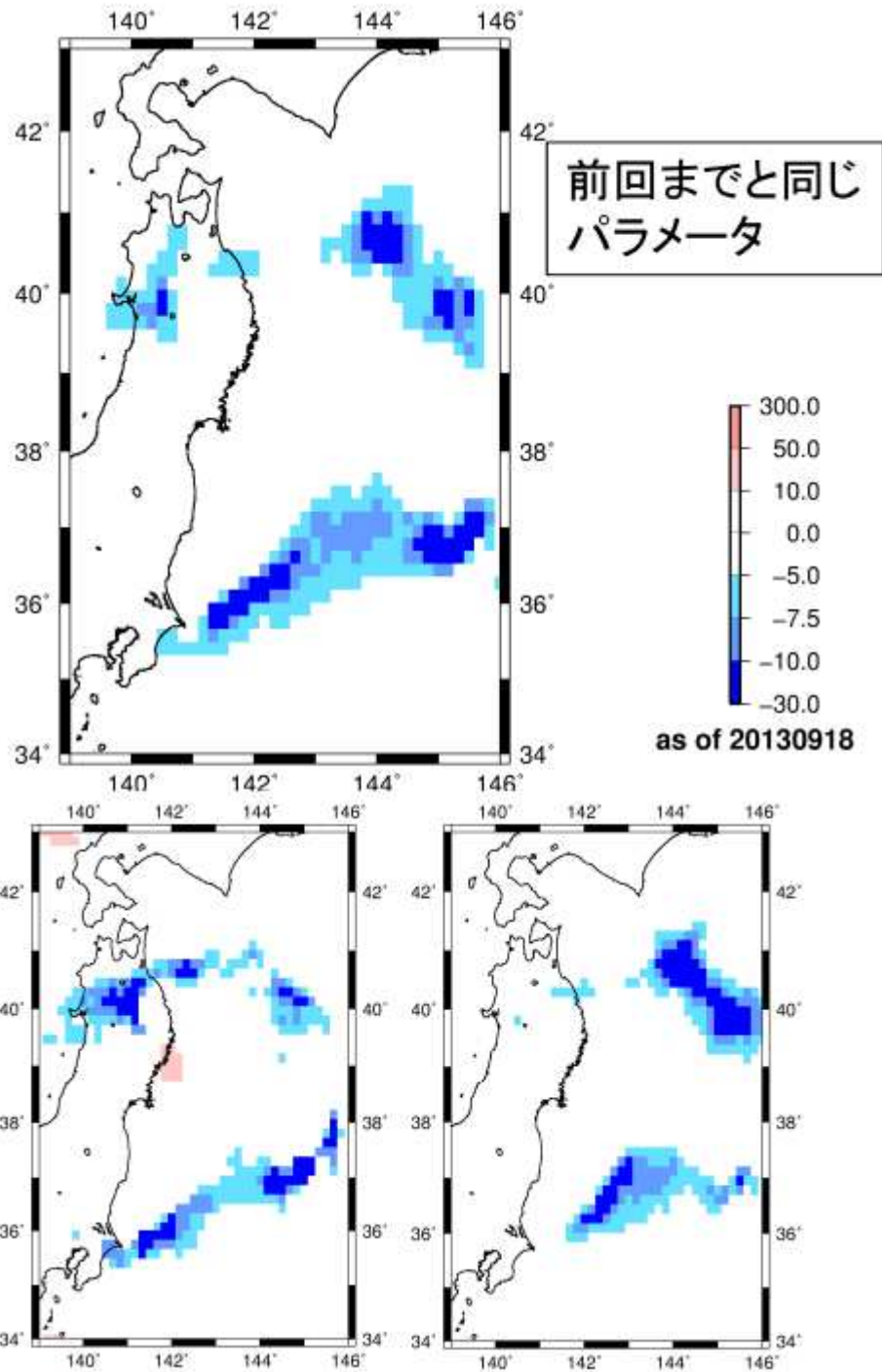
20日未明に東日本で震度5強を記録する地震（暫定マグニチュードは 5.9）が発生しました。福島で震度5強が観測されたのは約2年ぶりという状況でした。今朝の地震は気象庁の会見でも述べられていたように広い意味では311の余震です。ただこの地域では311の丁度1ヶ月後の4月11日にマグニチュード7.0の地震が発生しています。この地震は311に誘発された地震です（これも広い意味での311の余震と分類してかまわないと思います）。今朝の地震はこの411地震の近傍で発生しており、411の余震とも言えるものです。



東北地方の地震活動は311の発生により、それまでの状態からかけ離れた地震活動となっています。内陸地域で具体的に言えば、それまで比較的良く地震が発生していた場所で地震がほとんど発生しなくなったり、それまでほとんど地震活動が認められなかった地域で地震が発生するようになってしまいました。東北地方（一部関東地方を含む）ではそれまでの経験則が非常に使いづらい状況となっています。

東北沖につきましては、アウターライズ地震発生が危惧されるため、311以降の地震活動のみで評価してまいりました。どうもその状態が少し変わってきたようです。これまでは福島沖で顕著な静穏化現象が観測されていましたが、そのパターンが崩れてきております。

次ページの解析は9月18日時点での地下天気図®です。いずれも9月18日時点のものなのですが、いくつも結果があるのは解析に使用しているパラメータが違うためです。天気図でも地上天気図と高層天気図があるという事に相当します。重要なのはパラメータを変更しても同じようなパターンが得られる事と言えるかと思えます。その結果、実は静穏化は福島沖だけのものではなく、宮城・岩手沖の領域を取り囲むような形（ドーナツ状）で出現しているようにも見えます。



下の2枚の図も9月18日時点の地下天気図(解析領域, 期間等が異なる).
 重要なのは基本的に似た共通のパターンが出現している事と考えている.

現時点では東北地方太平洋沖, 特にアウターライズの地震活動に関し, 極めて深刻と思われる異常には至っていないと考えています. 今後も最適解を見つけるべく, パラメータのチューニングを行っていく所存です.